

子ども防災教室 第2回
「ポンプ隊の訓練を見学しよう」

2022年10月9日

子ども防災教室第2回目の今日は、共助（きょうじょ）のことを学びます。

共助とは、みんなで助け合うということ。

災害が起こった時に、地域の人で助け合えるように、和合町のおとなたちで、自主防災隊（じしゅぼうさいたい）という集まりをつくっています。

その中の一つに、ポンプ隊があります。

ポンプ隊って何？

しつもん1 : ポンプ隊の人って何人いるの？



こたえ :

隊長さん+ 15人 全員で16人。 女の人もあるよ

しつもん2 : ポンプ隊の人って消防士さん（しょうぼうしさん）？



こたえ :

消防の人じゃないよ。和合町のふつうの大人の人。
普段はちがう仕事をしているよ。

しつもん3 : ポンプ隊って何をやるの？



こたえ :

和合町で災害がおきたとき、助けてくれるよ。
消防の人とはちがうので、消防自動車（ポンプ車）には
のらない。可搬ポンプ（かはんポンプ）というちいさな
ポンプを使って火をけすよ。

しつもん4 : ポンプ隊の人は、どんな訓練をしているの？



こたえ :

川からポンプで水をくみあげて、ホースをつないで
火を消すための放水訓練（ほうすいくんれん）をやっ
ているよ。また、地震でこわれた家などから、人を助
ける訓練もしているよ。

今日の見学で学んでほしいこと

ポンプ隊の人たちは、自分たちの町を自分たちで守るために、(大きな災害の時は、救急車も消防自動車もすぐにはきてくれません) このように、みんなであつまって、訓練をしています。

こういうおとなたちのがんばりで、みんなの安全が守られています。(共助…きょうじよ)

今日のポンプ隊訓練

① 放水くんれん (ほうすいくんれん)

ポンプで川から水をくんで、火を消すくんれんをするよ。



② 人を助けるくんれん

家がこわれて、したじきになった人を助けるくんれんをするよ。

③ けがをした人を運ぶときに使うのがタンカ。

でもタンカがないときは、毛布をつかってタンカをつくることもできるんだ。そのれんしゅうをするよ。

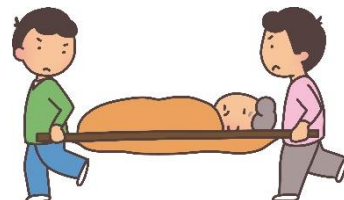
④ 助けた人をタンカにのせて、運ぶくんれん

人をタンカで運ぶのって、重いし、むずかしいんだよ。くんれんは大切。

⑤ 声を出すくんれん

大きな声をだすことはとても大事なこと。

大きな声で、伝えることで、すばやく動くことができるよ。



おとなのがんばりをしっかり見てね。

わからないことがあったら、どんどん聞いてね。

今日の宿題

災害がおこったとき、こどもにもできることがあるはずです

おうちのひとと一緒に考えてみてください

